

第32回  
住まいの  
リフォームコンクール  
入選作品

**RENOVASION  
COMPETITION**


**2022**



### 第32回リフォームコンクール

住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るために、「住まいのリフォームコンクール」を開催しました。単に「リフォーム」と言っても多岐に渡り、これからの高齢化社会に配慮したバリアフリーリフォーム、地震に備えての耐震改修、地球環境には配慮した省エネリフォーム、伝統技術の伝承を生かした古民家再生、長く使える工夫を施したリフォームなど様々です。

数ある応募作品の中でも、特に安心・安全・快適な住まいへと変貌を遂げた「リフォーム事例」の受賞作品をご紹介します。様々な創意・工夫に溢れた良質なリフォーム事例に触れることで、今後リフォームを考える方々の少しでもヒントとなれば幸いです。



## 第32回「住まいのリフォームコンクール」審査講評

住まいのリフォームの優れた事例を表彰してリフォームを推進することを目的とした、(公財)鹿児島県住宅・建築総合センターの主催する「住まいのリフォームコンクール」は今年で32回目となった。今年の応募作品は、木造や鉄筋コンクリート造の築100年以上から築21年までの16件で、築35年以上が12件と全体の8割を占め、木造戸建て住宅が14件、RC共同住宅が2件だった。木造戸建て住宅の1件の作品に平面図が付けられておらず、審査ができないため審査対象から外さざるを得ず、また、宿泊施設へリフォームした作品1件の辞退があり、14件での審査となった。

建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律(建築物省エネ法)が小規模な住宅建築にも適用され、今後、リフォームで確認申請が必要となると、建築物省エネ法の基準を満たす必要が生じる。鹿児島の古民家は、掃出窓の縁側が廻り、開放的で夏向きに造られているが、縁側のある開放的な掃出窓の建築は建築物省エネ法の外皮の基準を満たすことが困難となっている。そこで、各県で、その地域でつくられてきた伝統的な建築を継承し建てられるよう、建築物省エネ法の外皮の基準の緩和が可能な気候風土適応住宅の基準を定める動きがあり、熊本県ではすでに運用がはじまった。鹿児島県でも、現在、建築士会等で基準の検討が進められている。古民家等の改修で、縁側を残すか居室として縁側部分を取り込むかは、建築主と設計者の意向で多様である。しかし、なぜ縁側が日本の伝統的な建築で長年造られてきたのかを、一度、考え直すべきではないだろうか。一般的な古民家では、半間(約90cm)の軒庇があり、さらに半間の縁側があるため、居室から見ると一間(約1.8m)の庇があることと同等である。縁側は、夏は日射を防ぎ冬は日射を室内に取り込み、開け放して通風が可能な、緩衝空間となっている。エアコンがなかった時代、縁側は、やはり快適に暮らすために必要不可欠な空間として位置づけられ、これまで継承されてきた。鹿児島の気候にはやはり縁側はあった方がよいのではないだろうか。今回の作品にも縁側を縁側として再生した作品もあり、私としては高く評価した。

さて、今年度の審査委員会は9月30日に開催され、最初に6名(1名欠席)の審査委員が14件の応募作品を各自読み込んだ後、一人6票を各作品に投票したところ、5票が2作品、4票が2作品、3票が4作品、2票が2作品、1票が2作品となった。各作品の得票を踏まえながら、審査員が、一つ一つ作品の評価できる点や問題点について慎重に意見を交換した。その結果、0票と1票の3作品をはずした9作品に審査員一人5票を再投票することになり、5票が2作品、4票が1作品、3票が4作品、2票が2作品となった。そこで5票を獲得した2作品のどちらかを県知事賞とすることとし、5票の2作品のみで投票を行い、「築100年 家族の思い繋ぐ古民家再生」を県知事賞に決定した。協議を重ね、5票を獲得していた「時代と世代をつなぐ家」は先の県知事賞と同様の改修内容だったことから企画賞とし、理事長賞は「息を吹き返した70歳の家」となった。もう一つの企画賞を「持続可能な日本の古民家」、奨励賞をRC共同住宅の改修案の「夫婦と子供のためのエコリビング」と新築に近いコストをかけてはいるが骨格を再利用しデザイン的にも優れていることから「桜島を望む家」に決定した。耐震改修について優れている特別賞には、「ラーメン作るユーチューバーハウス」を選定した。

今回は、若い建築主が空き家を購入しリフォームした作品や、新築と同程度コストかけながらも敢えてリフォームし内外とも秀逸なデザインとなっている作品が見られた。また、この「住まいのリフォームコンクール」は、他用途へのリフォームも表彰対象としているが、宿泊施設へのリフォーム作品が応募されたが辞退されてしまったのは残念だった。

審査終了後、各応募者・設計者・施工者が事務局より審査員に開示され、また、今後のコンクールの募集内容等について意見が交わされ、浴室だけの改修やキッチンだけの改修という身近なリフォーム案の応募も増えてほしいとの意見が出された。

住まいのリフォームコンクール審査委員会

委員長 鯨坂 徹 [鹿児島大学大学院理工学研究科 教授]

### ■ 審査委員

委員長	鯨坂 徹	鹿児島大学大学院 理工学研究科 工学専攻 建築学プログラム教授
委員	八反田 淳一	(一社)鹿児島県建築士事務所協会会長
委員	落司 ひとみ	(公社)鹿児島県建築士会女性部会幹事
委員	桑原 耕	(一社)鹿児島県建築構造設計事務所協会会長
委員	岩元 ミユキ	鹿児島県インテリアコーディネーター協会会長
委員	上村 康孝	鹿児島県土木部建築課住宅政策室室長
委員	松尾 浩一	(公財)鹿児島県住宅・建築総合センター理事長

## 知事賞 「築100年 家族の思い繋ぐ古民家再生」

おもて、なかえ、馬小屋の3連棟の築100年程度の木造平屋の古民家の改修。馬小屋部分全体となかえ部分の一部を撤去し減築、機能的に不足した部分を若干増築している。旧来の骨組みだけでなく、古瓦、切石、建具、欄間等を有効利用しながら、断熱や基礎のRC化・耐震壁を設けて、新築とほぼ同等の機能向上を目指している点が高く評価された。特に天井のない小屋裏の見えるLDKは居心地のよさそうな空間である。また、改修後も座敷の縁側を残し、畳敷きの和室がある点も評価された。この和室と縁側は、タイトルとおりのこれまでの家族の古民家の思いを継承する空間となっていると考えられる。仏壇障子を照明器具へ、ガラス障子の再利用等も審査員の共感を得た。一方、審査員からは、外観がツートンカラーで切妻の青い屋根へ改修されており、周辺環境とどのように調和しているか心配との意見もあった。できれば、外観は旧来の素材や色調を継承してもよかったのかもしれない。古民家は新建材でなく、地域のほんものの材料が使われており、その魅力を一部でも継承しようとして部材等を再利用した設計者の考え方が素晴らしく、鹿児島県知事賞に選定した。

## 理事長賞 「息を吹き返した70歳の家」

霧島市の築約70年の木造平屋を、まだ30歳代の建築主が購入し改修した作品。まだ若い建築主が新築でなくリフォームを選ばれた点と、田園風景の中で、屋根の素材や外観を継承し景観的にも周囲に調和している点が高く評価された。もともとの段差を解消して床をフラットにし、LOW-eガラスやグラスウールにより断熱性能を向上している。内部は、一部の梁が残されているが、天井・壁ともボードを貼り白く仕上げられ縁側も居室化され内部がマンションのようにも見えたとの意見もあったが、畳敷きも一部あり、従来の形状をうまく活かした点に審査員の賛同が得られた。コストから、基礎をRC化できなかつたため、シロアリ防除、土壌散布を実施したとしている。地域の空き家を購入しリフォームして居住する若い世代が、今後、増えていくことを期待したい。

## 企画賞 「時代と世代をつなぐ家」

相続した築100年以上の大正5年の平屋のリフォーム。既存の梁や柱を活かすとともに柱を補強、屋根を瓦からコロニアルに軽量化、床壁天井に断熱材を施工し、耐震性と機能向上を目指している。外部はサイディングが張られ、内部は白い大壁となっているが、旧来の黒ずんだ梁が見え、新築にはない味わい深いインテリアとなっている。しかし、もう少し旧来の形態を残して、南側の広縁や真壁・欄間等を残す方法もあったのかもしれない。敷地は指宿市のようなが、周囲の景観との関係性が応募書類から読み取れず、判断できなかった。

## 企画賞 「持続可能な 日本の 古民家」

穎娃町の築60年の改修で、玄関位置を変更し、2つの和室を残して洋室化、床下、天井裏、内壁の断熱化工事を行うとともに、ジャッキアップによるレベリング補修と礎石周りにコンクリートが打設されている。瓦を取り替えてはいるが、写真では、外観の形態はそのまま継承されているように見える。内部は、縁側が残され、真壁や竿縁天井が継承されており、伝統構法の古民家の空間が引き継がれるとともに、リビング等の大壁の白い壁が明るいイメージを創出している。水廻りは更新され合併浄化槽となり、一部の蟻害部分と腐朽部分は、根継ぎ等々で補強されている。旧玄関が押入れとなっているが、折角の旧玄関をもう少し活かす使い方があればさらによかったのではないだろうか。

## 奨励賞 「夫婦と子供のためのエコリビング」

築21年の鉄筋コンクリート3階建ての4DKを2LDKにリフォームした作品。バルコニー側のダイニング、洋室、和室の3室をワークスペースのある1ルームのLDKとし、使いやすい空間とした。また、今回はRC共同住宅のリフォーム作品が2つ応募されていたが、水廻りを改修しながら面積あたりの工事単価が他案の1/2と、廉価で実施されており、審査員から評価された。

## 奨励賞 「桜島を望む家」

桜島を正面に眺められることから、新築でなく築47年の在来工法の中古住宅のリフォームを行った作品。一旦骨組みまで戻し、耐震補強と平面計画を見直し、新築に近いコストでリフォームされているが、内外部のデザインが秀逸で奨励賞となった。また、外構のフェンスとブロック擁壁を撤去することにより、道からの景観が地域に開かれたイメージに一変しており、この点でも審査員の評価が高かった。

## 特別賞（耐震改修） 「ラーメン作るユーチューバーハウス」

鹿児島市内の築35年の在来木造の住宅を趣味のラーメン作りとセカンドハウスとしてリフォームした作品。耐震金物、筋交いを取り付けるとともに、土間も配筋してコンクリートのベタ基礎化した。防音と断熱工事も実施され、耐震化の工事写真等が詳しく添付されていたことから評価され、最も特別賞に相応しい作品として選定された。

## 知事賞



「築100年 家族の思い繋ぐ古民家再生」  
株式会社 建築工房 匠 …………… 1

## 企画賞



「持続可能な 日本の 古民家」  
株式会社建築工房 Workspace …………… 4

## 奨励賞



「夫婦と子供のためのエコリビング」  
ユーミーコーポレーション株式会社 …………… 5

## 理事長賞



「息を吹き返した70歳の家」  
有限会社 リビング亀沢 …………… 2

## 奨励賞



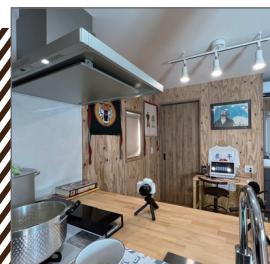
「桜島を望む家」  
株式会社 創建 …………… 6

## 企画賞



「時代と世代をつなぐ家」  
有限会社 幸福住建 …………… 3

## 特別賞（耐震改修）



「ラーメン作るユーザーハウス」  
有限会社 西谷工業 …………… 7

#### リフォーム前



馬小屋と棟続きの母屋



梁現しの和室（スズで黒くなった梁）

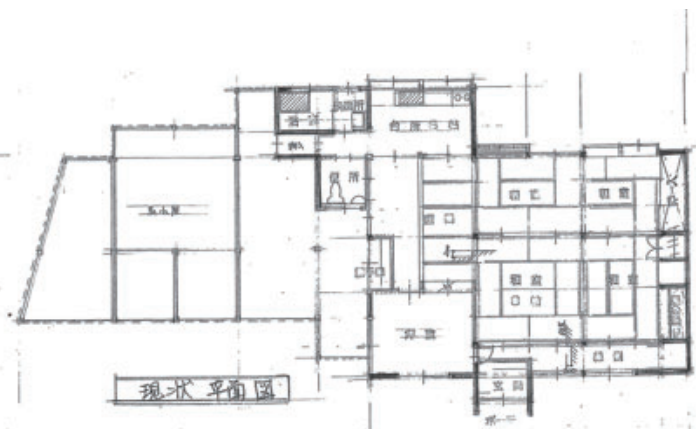


梁現しの居間



新材材で覆われた洋室

#### リフォーム前平面図



#### リフォーム後



アプローチ側から観る外観



楽しい庭づくり



想いを大切にインテリアに



小屋裏も吹抜け 寒くないゆったり広々LDK

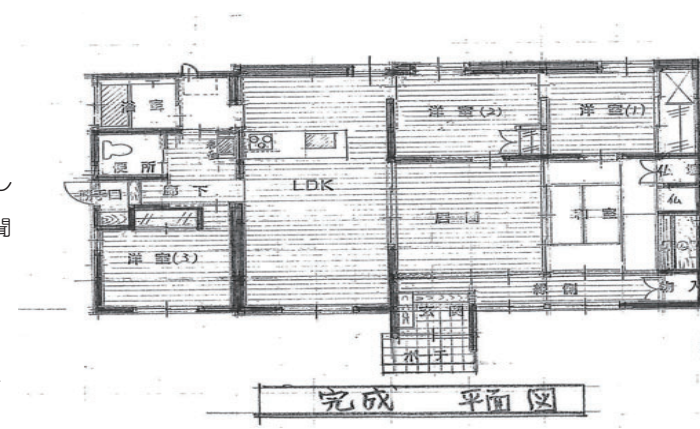


再利用した和室障子 SDGs



広くて段差の少ない玄関

#### リフォーム後平面図

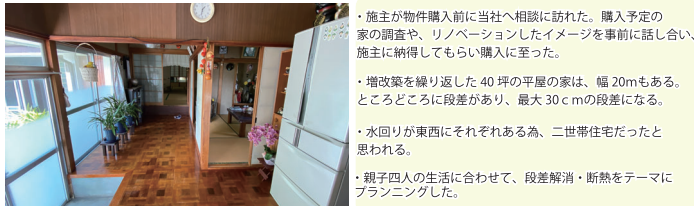


#### 設計施工のポイント（増改築等の工夫）

- 【基本姿勢・思い】
- ・100年以上前に建築されたであろう母屋の骨組みを大切に利用し、新しく何処にでもない住宅に再生したい
- ・既存住宅は、南九州市に多く残された田の字型をした家で、壁が少なく隙間風もあり、冬場は寒くて大変、暖かい家、台風、地震でも安心安全に過ごせる家に
- ・デザイン性の向上
- ・古材の有効活用
- ・古い小屋の基礎部分に利用されていた切石・古瓦を庭造りに利用しました
- ・玄関へのアプローチ位置を南側に6m移動 庭を見ながら過ごし、開間 岳が見渡せる良い空間が抱きました
- ・解体して全て処分するのではなく、出来る限り再利用これぞ SDGs
- 【技術的な工夫】
- ・築何年であろうとも、暖かいに家にする
- ・築何年であろうとも、耐震性に優れた家
- ・築何年であろうとも、安心安全な家にする
- ・建物の外周部分を全て新築の基準で施工（鉄筋コンクリート基礎と耐力壁で囲む）
- ・既存の土台・柱・梁桁・小屋組は残す

応募者	設計者・施工者	築年数	構造	建方方式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
松元 重治	株式会社建築工房匠	100年程度	在来木造	一戸建	2022年2月	150日間	2,175万	南九州市	減築・耐震改修・断熱・古民家リフォーム工事

#### リフォーム前



- ・施主が物件購入前に当社へ相談に訪れた。購入予定の家の調査や、リノベーションしたイメージを事前に話し合い、施主に納得してもらい購入に至った。
- ・増改築を繰り返した40坪の平屋の家は、幅20mもある。ところどころに段差があり、最大30cmの段差になる。
- ・水回りが東西にそれぞれある為、二世帯住宅だったと思われる。
- ・親子四人の生活に合わせて、段差解消・断熱をテーマにプランニングした。

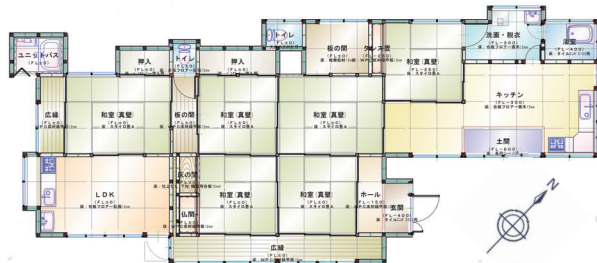
#### リフォーム後



- ・増改築を繰り返しまとまりのなかった家を、今の家族構成にあった機能性のある家に変えた。
- ・購入前に鳥瞰図を見せて、具体的なイメージを共有することができた。
- ・古民家の梁を活かし、床材は無垢の杉板を使用して、木のぬくもりを感じられるリビングをデザインした。



#### リフォーム前平面図



#### 設計施工のポイント（増改築等の工夫）



敷地がなだらかな傾斜地ということもあり、増築を重ねた家のつなぎ目部分に段差があった。段差を解消する為、床は骨組みから解体してフラットに組みなおした。



窓は樹脂サッシ LOW-E 複層遮熱ガラスを入れ替え、床下はウレタン吹き付け壁と天井はグラスウールを敷き詰めて断熱性を向上させた。



床高を上げたので、天井が低く感じないように勾配天井や、あえて梁を見せる方法を取った。

予算の都合上ベタ基礎に出来なかった為、白蟻防除、土壌散布を行った。

#### リフォーム後平面図



応募者・設計者・施工者

有限会社リビング亀沢

築年数

70年

構造

在来木造

建方方式

一戸建

竣工

2020年8月

工事期間

4カ月

工事費

1,840万

所在地

霧島市

リフォーム内容

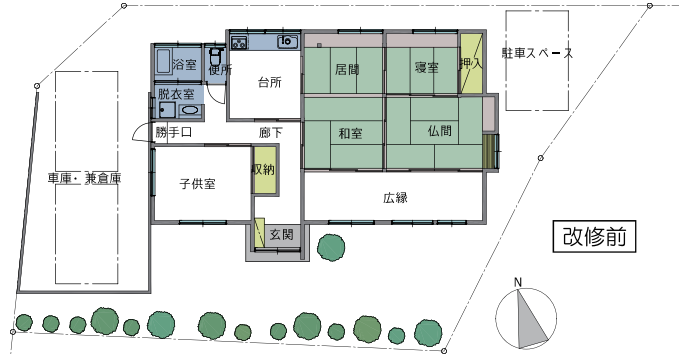
全面リフォーム

#### リフォーム前

親から相続した実家は大正5年築造の先祖代々住み続ける築100年超えの田の字型の木造住宅で、昭和時代に一部増築をした約30坪のすまいです。

壊して建て替えるのではなく、リフォームして住むという選択をした建て主は子供5人の7人家族。室内にはかつて生活の中心であった囲炉裏のすで黒くなった柱や梁が残っており、歴史を感じることができる古民家の面影を残して日本住宅の伝統や構造美を感じることができるリノベーション計画です。

建物の内外装の老朽化に伴い、柱・梁などの骨組以外のすべてを撤去し、家族7人のライフスタイルに合わせた大幅な間取りの変更を行い、建物の歪みの調整と構造補強、断熱補強を行った改修工事です。



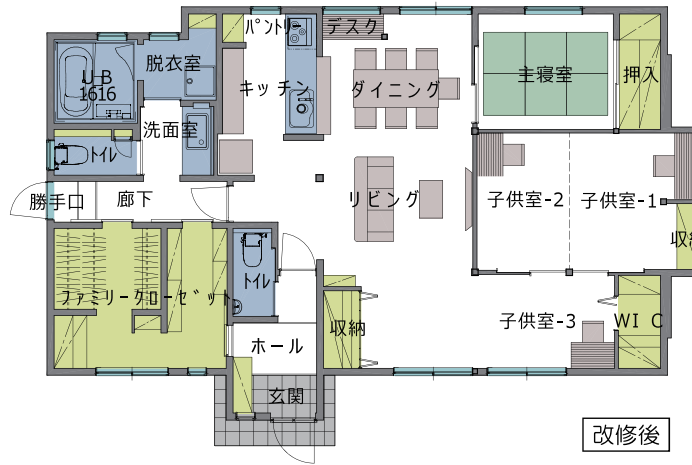
改修前

#### リフォーム後



■柱・梁を現しとした古民家リノベーション

大正から令和へ、先祖から子孫へと受け継がれた100年住宅はこれからさらに100年、住み続けられるすまいに。



改修後



■天井高さ2.7MのLD



■リビングとつながった子供室



■LDを見渡せる対面キッチン



■おもてなしの玄関



■幅広の造作洗面台



■サイディング張りの外観

天井高さを2.7Mとした室内は低い梁の圧迫感を緩和し、床の段差をなくしたバリアフリーな空間。キッチン横に集約した水廻りは家事動線が短縮され、脱衣室から独立した造作洗面化粧台は2人並んで使える計画で、トイレが2カ所あるのも大家族ならではの配慮です。床は木目の表情豊かなメープルのフローリングを張り、壁は白を基調として天井の梁が強調されるデザインです。

既存のアルミサッシは複層ガラスのハイブリッドサッシにすべて交換することで気密性と断熱性を確保し、床・壁・天井には高性能断熱材を充填して四季を通じて快適に生活できるようにしました。屋根の瓦はコロニアルに葺き替えることで建物の軽量化を図り、筋交いや構造金物の設置と制震ダンパーも各所にバランスよく設置することで構造的な補強を行い耐震性も向上させました。



■改修前の外観



■改修前の室内



■解体後の外観



■解体後の室内

応募者・施工者	設計者	築年数	構造	建方方式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
有限会社幸福住建	幸福住建一級建築士事務所 福永知哉	105年	在来木造	一戸建	2021年9月	120日間	1,800万	指宿市	内部全体リフォーム



#### リフォーム前



改修前外観



改修前床の間



改修前和室



改修前寝室



改修前キッチンからリビング



リビングからキッチン



改修前洋間から 改修後玄関ホールへ

#### リフォーム後



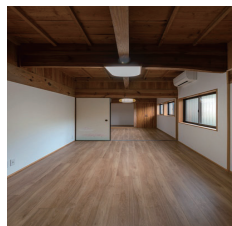
完成外観



完成床の間



完成和室



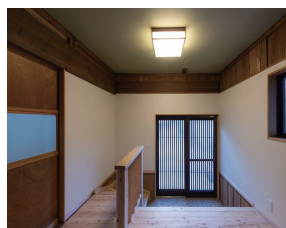
完成寝室



完成キッチンからリビング



完成リビングからキッチン

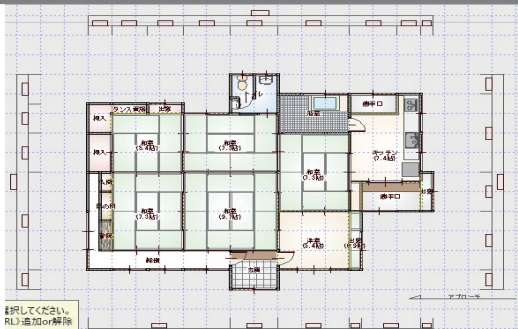


完成 洋間から玄関ホールへ



完成 洋間から玄関ホールへ

#### リフォーム前平面図



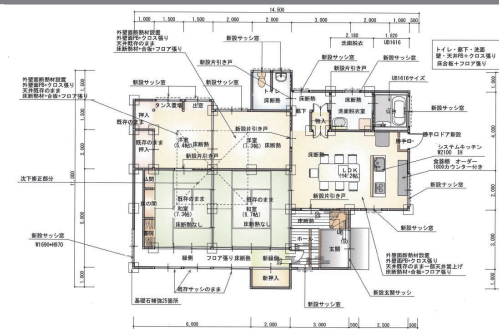
#### 設計施工のポイント (増改築等の工夫)

アプローチから玄関に向かうのに洋間を過ぎてから入るので玄関が分かりにくい。建物の一部が沈下している。基礎礎石の石が小さい。子供、孫たちの集う部屋を作りたい。寝室の環境を良くしたい。水回りを新しくしたい。瓦が古く雨漏りがしている。

##### 「改修後の工夫」

既存の玄関を押し入れにし、洋間を玄関ホールに変えて、アプローチからすぐに玄関が分かるようにした。最大3cmの沈下をジャッキアップにより矯正した。礎石の周りにコンクリートを打ち増し礎石自体を大きくした。(25箇所) キッチン部分と和室を一つにして既存の天井を外し梁を見せて天井を高い位置に設置した。寝室は新たな壁を作りコンセント等を設置し、間仕切り壁等を漆喰で塗り環境を良くした。トイレ、浴室、流しは新しく取り換えた。瓦下地はそのまま、防水処理行い新設瓦に取り換えた。外周の内壁、フローリングの下地、改修部分の天井には、すべて断熱材を設置している。一部の白蟻の被害と腐朽部分は、大工の技術による、根継ぎ(金輪継ぎ)及び切込み等で補強した。

#### リフォーム後平面図



応募者・施工者	設計者	築年数	構造	建方方式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
株式会社建築工房 Workspace	同左 大城孝一	60年	在来木造	一戸建	2022年1月	120日	2000万	南九州市	内部改修・外壁塗装・模様替え

#### リフォーム前

##### ■キッチン



経年による汚れや傷みが見られるキッチン

##### ■和室



押入二間と収納が多いが窓や扉で囲まれ家具の配置が難しい和室

##### ■トイレ



劣化が目立ち薄暗い印象

##### ■洗面脱衣室



黄ばみが目立ち古さを感じる

##### ■ユニットバス



混合水栓が入居者ニーズに合わない

#### リフォーム後

■LDKには長寿命なLEDライトへ変更し省エネ効果もばっちり！



Point 廃棄物の軽減やエコを考え、トイレは節水型へ



Point 家族に優しいエコリビングのポイント！

- ① **子育てママのニーズを取り込んだダイニング空間**  
リビング学習は孤独の軽減と集中力が高まると言われています。また広いリビングにすることで、賃貸でありながら大きなダイニングテーブルが置けるようにしました。
- ② **夫婦のためにリラックスできる調色ダウンライト**  
適度な低色温度は気持ちを落ち着かせると言われています。一日の疲れを癒す調色ダウンライトで、明るく仲のいい家庭をサポートします。
- ③ **家族を感じながら個室感のあるDEN**  
リビングに設置したDENは、ワークスペースとしてだけでなく家事スペースや学習机としても活用できます。
- ④ **エコ空間**  
家族が一つの空間で過ごすことで、電気代を軽減し、環境に配慮したエコ空間につなげています。



DEN

パントリー

キッチン

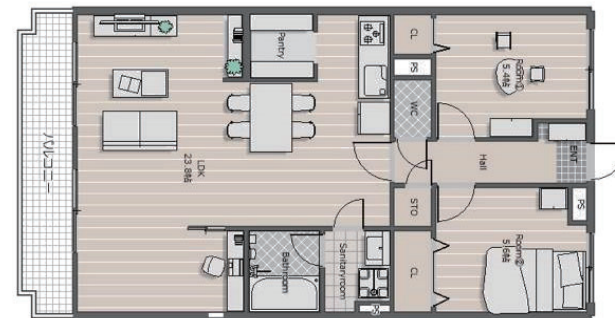
#### リフォーム前平面図



#### 設計施工のポイント（増改築等の工夫）

- ・間取り：4DKから2LDKに変更。依頼者のライフスタイルにフィットする空間づくりを目指した。
- ・LDK：キッチンの配置はそのままに、背面に大容量のパントリーを設置。セミオープンスタイルの「DEN」を設置させ、リビングに繋がりながらも「おこもり感」のあるスペースで集中できる空間を実現。そうすることで家族が一つの空間で過ごすことができ、電気代等の余計なコストを軽減し環境面にも配慮したエコ空間を誕生させた。
- ・照明：LDKはダウンライトを採用、調光調色機能を持たせライフシーンに応じた照明の切り替えを可能にした。
- ・建具：未施工部の既存の色味を活かしつつ、LDKから先のリノベーション空間には、メリハリのある『黒×木目×グレー』でコーディネート。
- ・洋室1,2・廊下：予算が決まっていたため、やりたい工事、賃貸としての差別化、それぞれに優先順位をつけ原状回復工事のみ実施。

#### リフォーム後平面図



応募者・設計者

施工者

築年数

構造

建方方式

竣工

工事期間

工事費

所在地

リフォーム内容

ユーミーコーポレーション  
株式会社

株式会社橋口組  
(協力業者：(有)FARE)

21年

RC造

共同住宅

2022年8月

60日間

300万

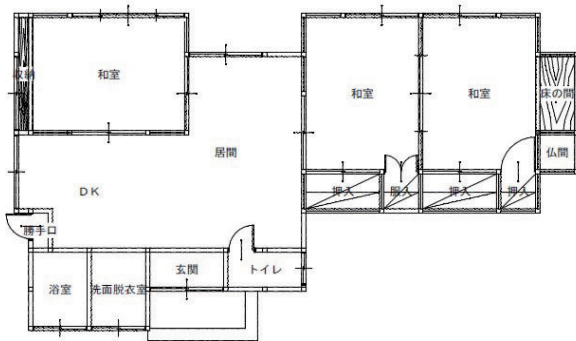
薩摩川内市

賃貸マンション部分リノベーション  
(4DKから2LDKへ変更)

#### リフォーム前



#### リフォーム前平面図



#### リフォーム後



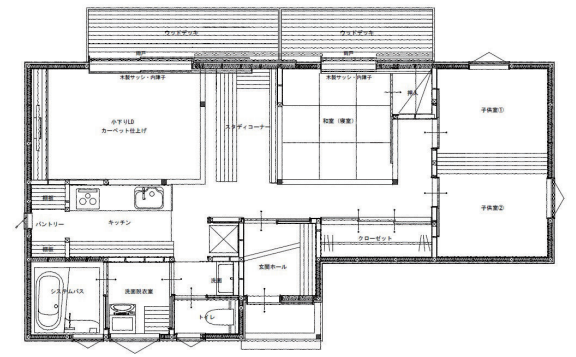
元々十分な広さで窓も沢山ある家だったが、居間においても玄関から直接見えるため落ち着かない空間であった。外観的にも凸凹が多く屋根のかけかたも少し強引な部分もあった。

壁を増やすことで家具の配置もしやすくなった。元々4枚引違があった場所に1枚引きの木製サッシを設置したことにより解放感が生まれた。間仕切壁ではなく天井や床の仕上げで空間を分けた。キッチンから家全体の様子を伺うことができ、目の前の桜島も良く見える。普段の新築と同じレベルに耐震性、断熱気密性能も向上させることができた。全体的に落ち着いた暖かみのある空間となった。

#### 設計施工のポイント（増改築等の工夫）

- ・無駄なスペースを減築、凸凹を無くし平面、外観をシンプルにした。
- ・玄関のある面はシンプルな外観となったが、木製の玄関がポイントとなり、南面もガルバと木製サッシの組合せがマッチしている。
- ・壁が増えることで包まれるような安心感が生まれ、窓も必要な部分をあけることにより視線を誘導でき、家全体の通風もコントロールできる。
- ・木製サッシの外には台風の時でも安心できるように木製の雨戸を設けた。
- ・小下りリビングの仕上げをウール100%のカーペット、他の床や、窓枠、建具枠には杉の無垢材、壁の仕上げには珪藻土と和紙を使い、自然素材に包まれた優しい空間となった。
- ・リビングの一部は現在スタディコーナーとしているが、お子さんが大きくなったら薪ストーブか大きなソファを置きたいと考えている。
- ・基本的な家の形は変わっていないが、高性能な住まいとなった。

#### リフォーム後平面図



応募者

設計者

施工者

築年数

構造

建方方式

竣工

工事期間

工事費

所在地

リフォーム内容

株式会社創建  
有村洋伸

有村洋伸

株式会社創建

47年

在来木造

一戸建

2021年12月

250日

2,300万

鹿児島市

全面リフォーム・断熱+耐震性能向上

# 特別賞 (耐震改修)

## ラーメン作るユーザーハウス

### 第32回 住まいのリフォームコンクール

#### リフォーム前

① 1階和室 (湿気が多くカビが)



⑤ 2階和室 (窓も少なく暗い)



⑦ トイレ



⑧ 屋根



② 玄関



③ 全景



④ 構造



⑥ 朽ちた台所



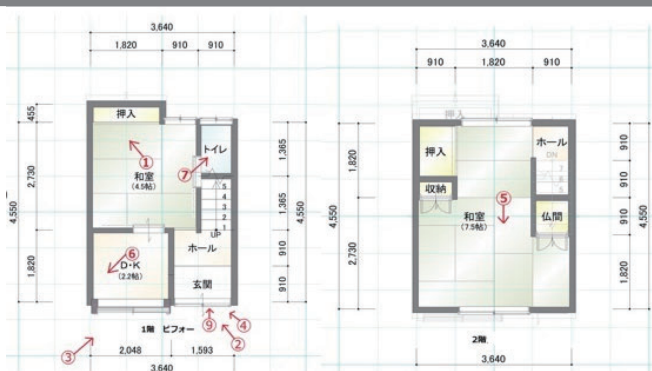
⑨ 基礎



#### リフォーム後



#### リフォーム前平面図



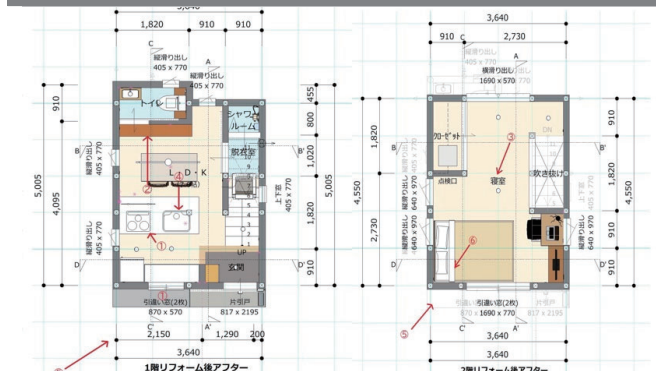
#### 設計施工のポイント (増改築等の工夫)

- 設計施工のポイント
- 築 40 年程ご両親がお住まいになられた自宅を息子様ご夫婦が受け継ぎ、  
{趣味のラーメン作りと} セカンドハウスを兼ね備えた家へのコンパクトハウスへのリフォーム工事となりました。
- 建物周辺が道路が狭く家が肩寄せあい JR がすぐ後ろを走る環境下にあり厳しい工事と・・・
- 屋根の雨漏りと強度を考えガルバニウムの屋根へ
- 構造が 40 年近く耐震を兼ねて外壁屋根材を剥ぎ柱だけ残し耐震金物・基礎補強・筋交耐震壁の設置をしました。
- 暑さ寒さと線路が走り防音を兼ねて断熱材遮熱シートで窓は複層窓とし最大限の効果を生みました。
- 極小住宅で動線と配置を考え施工しました

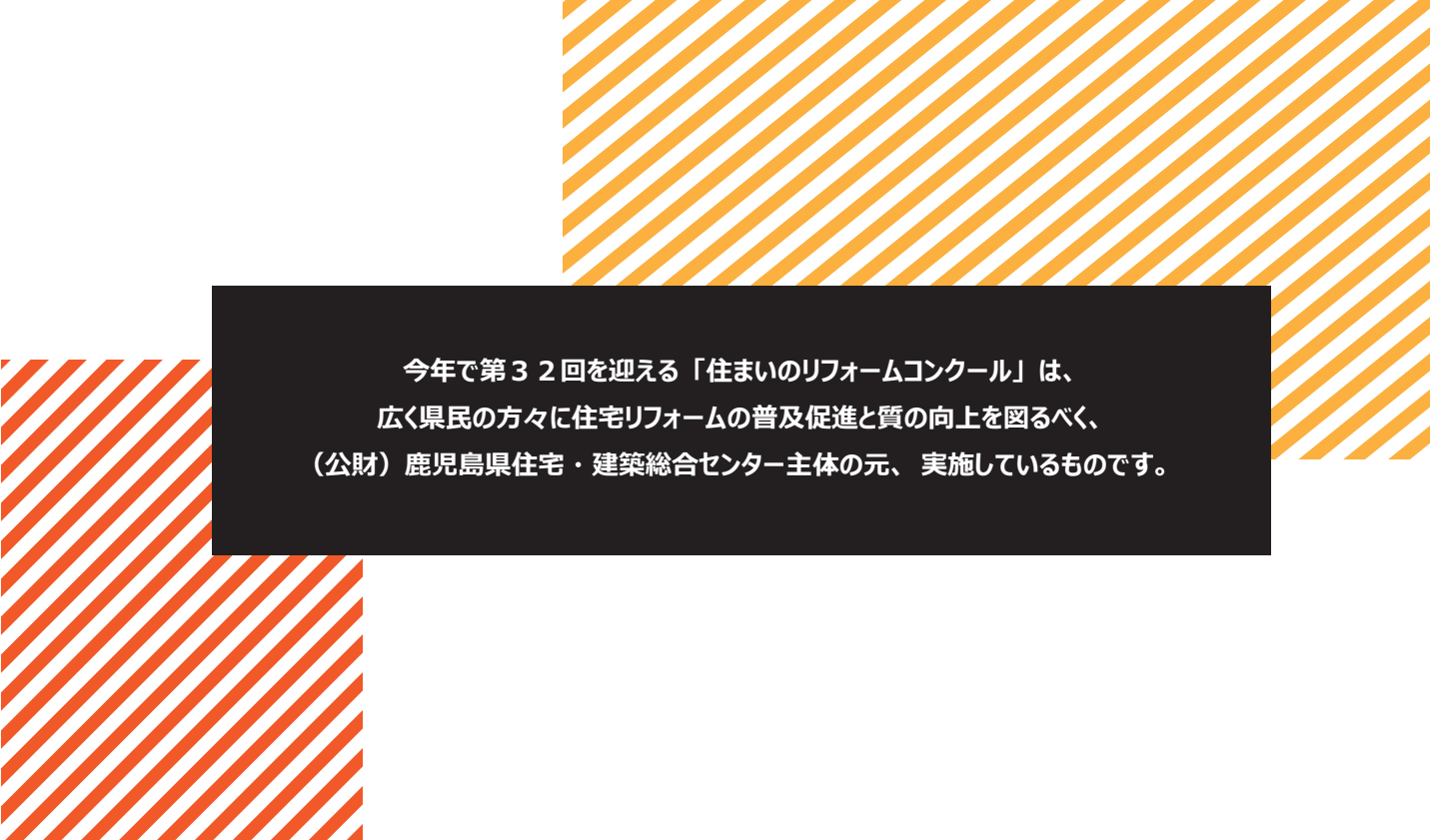
[タイガーラーメン研究所チャンネル - YouTube](#)

↑  
チャンネル登録をお願いします

#### リフォーム後平面図



応募者	設計者・施工者	築年数	構造	建方方式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
有限会社西谷工業	西谷 誠	35 年	在来木造	一戸建	2021 年 11 月	75 日間	960 万	鹿児島市	スケルトンリフォーム



今年で第32回を迎える「住まいのリフォームコンクール」は、  
広く県民の方々に住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るべく、  
(公財)鹿児島県住宅・建築総合センター主体の元、実施しているものです。



令和4年10月  
発行：鹿児島県住宅リフォーム推進協議会

